2014 年度
人権 NPO 協働助成事業報告書

人権 NPO 協働助成事業は、多様化・複層化した人権問題の解決に向けて、人権 NPO 等（人権問題解決に取り組む NPO や団体等）へ支援するともに協働で取り組むことにより、人権問題の解決に向けた取り組みのネットワークづくりを進めています。

新たな人権問題など様々な人権問題の解決に取り組む人権 NPO 等による 4 つ事業に対して助成を行い、この取り組みを「2014 年度人権 NPO 協働助成事業報告書」として取りまとめました。

これらの取り組みを知っていただくことで、様々な人権問題の解決に向けた取り組みが広がることを願っています。

-もくじ-

①アルビノ甲子園 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
団体名：アルビノ・ドーナツの会

②出前講座「自分のセクシュアリティを考えよう。そして、セクシュアルマイノリティについて学ぼう」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
団体名：ＱＷＲＣ

③在日コリアンなんでも相談室「晴れほこ」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
団体名：在日コリアン青年連合（ＫＥＹ）

④当事者の自主的な社会交流促進事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
団体名：ほしぞら

一般財団法人　大阪府人権協会

〒552-0001
大阪市港区波除４－１－３７　ＨＲＣビル（AIAI おおさか）８階
ＴＥＬ０６－６５８１－８６１３　ＦＡＸ０６－６５８１－８６１４
http://www.jinken-osaka.jp/　info@jinken-osaka.jp
報告書に掲載している事業についてのお問い合わせは、上記までお願いします。

２０１４年度人権ＮＰＯ協働助成金　事業活動報告書

事 業 名	アルビノ甲子園
団 体 名	アルビノ・ドーナツの会

日時・期間	第 1 弾　2014 年 8 月 23 日(土)11:00～8 月 24 日(日)午前解散 第 2 弾　2015 年 2 月 21 日(土)13:00～17:00
場　　所	第１弾　羽衣国際ユースホステル 第２弾　市民交流センターすみよし北
規模・人数	第１弾　30 人弱、第２弾　20 人弱
解決したい課　　題	対象はアルビノの学生(中学生、高校生、大学生)で、おおよその人数は大阪府内で約 30 人。日常生活に置き、対象者は当事者同士で会う機会がめったに無く過ごしている。その為に、自身が抱えている問題に気づきにくかったり(健常者と同じようにできない事など)、孤立して悩みを抱え込むことが少なくない。また、人生のモデルになるような成人したアルビノ当事者の存在との繋がりも無い為に、情報や問題解決の手がかりすら無く、将来への不安や心配も大きい現状がある。
実 施 内 容	◆【交流事業】2014 年 4 月 1 日～2015 年 2 月 28 日の間に、対象者を集めて 2 回に分けて交流イベントを開催した。 ①第１弾…キャンプ施設などを借り、バーベキューの調理などを通しお互いに打ち解けた後、日常生活で対象者がどういった問題にぶちあたっているか情報交換し合う。 ②第２弾…様々で多様なライフスタイルの成人したアルビノ当事者数人を講師に迎えて、「生活スタイル、就職、仕事について」情報交換をし合う。 ◆【広報事業】「アルビノ・ドーナツの会」ホームページの中で、対象者の先輩がどういったライフスタイルを実際に送っているのか、第２弾でゲストスピーカーとして参加協力してくれた成人した当事者からプロフィールを聞き、それを掲載した。イベント開催に実際に興味を持ってもらうのと同時に、やむを得ず今回参加できない対象者へもメッセージを発信し、来年度以降の参加につなげるようにした。
成果と課題	今まで孤立していたアルビノ当事者の特に学生同士・若い年代の横の繋がりだけでは無く、同じような経験をした目指す職業や生き方を現役で実現している大人の当事者を結ぶことができた。 また、私自身もこの取り組みを通して、新しく出会ったアルビノ学生や協力者ができたことも大きな成果である。 成果ゆえの課題としては、境遇・同年代・同性・学歴など、似通った相手は共通項が多い分、共感も得られやすい反面、自身と比較しやすくなってしまう側面がある。比較の部分だけが膨らんでしまうと、しんどくなって集まりに参加しづらくなるという点が気になった。そして「学生」と、その道を１度通って来た「大人」との「意識のズレ」も大きいと感じた。 私自身のモチベーションも含め、「このような場所の維持・継続」は最大の課題だと感じている。

今後の目標	アルビノ・ドーナツの会、或いは「アルビノ甲子園」が、アルビノ当事者たちにとっての、会社(学校)・自宅以外のもう１つの居場所、心の拠り所になればと考えている。それにはやはり「維持・継続」が不可欠であると考え、それを大きく下支えするのは、何よりもモチベーションが必要なのだと思う。モチベーションを維持し続けるには、どういったことが効果的なのか、試行錯誤しながら見つけたいと思う。

お問い合わせ先：doughnuts_agetatehokuhoku@yahoo.co.jp

２０１４年度人権ＮＰＯ協働助成金　事業活動報告書

事 業 名	出前講座 「自分のセクシュアリティを考えよう。そして、セクシュアルマイノリティについて学ぼう。」
団 体 名	QWRC

日時・期間	1.在日コリアン青年連合（KEY）2014 年 10 月 25 日 2.大阪スタタリング・プロジェクト 2015 年 1 月 23 日
場　　所	1.KEY 事務所 2.應典院
規模・人数	1.KEY 事務所　13 名 2.應典院　29 名
解決したい課　　題	QWRC では、日頃の交流事業の中でセクシュアリティの面だけでなく、他のマイノリティ性を持った参加者が多数おられること、またそれらの方々はそれぞれの当事者グループにおいて、他のマイノリティ性をカミングアウトしにくいことがわかってきました。例えば、QWRC で自分の精神疾患のことを語りにくく、精神疾患の自助グループでは自分のセクシュアリティを語りにくいのです。 どんなマイノリティのグループの中にもセクシュアルマイノリティはいます。 いろんなマイノリティグループに QWRC が出向いてセクシュアリティに関する講座を開くことで、それぞれの場がセクシュアリティにオープンな場になることを目指して、出前講座を企画しました。
実 施 内 容	今回の出前講座は、在日コリアンの青年のグループである KEY さんと、吃音者の自助グループである大阪スタタリング・プロジェクトさんに出前に行かせていただきました。 出前講座では、事前に打ち合わせを丁寧に行い、講座のプログラムを一緒に作っていきました。 打ち合わせの中で生まれた「それぞれのマイノリティの問題・特徴を発表し合うワーク」を出前講座で実施し、それぞれの講座で熱のこもった発表とグループ間の交流が行われました。 また、出前講座の報告とプログラムの紹介のためにブックレットを作成し、配布しました。
成果と課題	出前講座で軸として実施した「それぞれのマイノリティの問題・特徴を発表し合うワーク」を通じて、相互に学びあえ、またそれぞれの相違点を見ていくことで、立体的に問題・特徴を把握できました。同時に自分自身の属しているマイノリティに関しても、新たな発見がありました。 [アンケートより] ＜KEY＞・このようなテーマに触れるたびに、自分の先入観の強さ（男か女か）や、それに基づいて行動している自分に気付きます。 ・セクシュアルマイノリティについて、LGBT でひとくくりにできないことがわかりました。４つの指標も新たな観点でした。 ・自分たちの中にセクシュアルマイノリティがいるという前提で、活動するということの大切さを忘れないようにします。

	＜大阪スタタリング・プロジェクト＞・すばらしい経験でした。世界は多様で面白いと思った。 ・偏見を持っていたこと、知らないことが多かった。（セクシュアルマイノリティについて）性の４つの指標がわかりやすかった。 ・性別二元論にやはりとらわれていた。 ・Ａセクシュアルというあり方、セクシュアリティはゆらぐということ、そうなんだなと納得した。
今後の目標	これからもどのような集団でも、中にセクシュアルマイノリティがいることを前提に、それぞれの場がセクシュアリティに関して開かれた場になることを目標に、啓発活動をしていきたいと考えます。 その場合、今回の出前講座の方式はとても有効だと思っています。 また、いろいろなマイノリティグループが出会うことで、いろんな発見があり、新たな活動の可能性が生まれるのではないかと感じています。

お問い合わせ先：info@qwrc.org

２０１４年度人権ＮＰＯ協働助成金　事業活動報告書

事 業 名	在日コリアンなんでも相談室　「晴れほこ」
団 体 名	在日コリアン青年連合（ＫＥＹ）

日時・期間	2014 年 4 月 1 日～2015 年 2 月 28 日
場　　所	ＫＥＹ事務所（大阪・兵庫・東京）
規模・人数	企画・運営 12 人（うち相談員 3 人）
解決したい課　　題	（１）【当事者ケア】インターネットでの差別的書き込みやヘイトスピーチが過激化する中、孤立化した在日コリアン青年たちが、特有の悩みや「もやもや」を同じ当事者である相談員に気兼ねなく相談し、共に解決までの道のりを探る。 （２）【当事者へ発信】相談窓口が開設されたことを在日コリアン青年当事者に広く伝え、実際に相談に来られなくとも「いざとなったら相談できる場がある」という選択肢を可視化させるという当事者への発信。 （３）【社会へ発信】相談事業を通して、在日コリアン青年の差別・疎外状況についての実態や相談窓口の必要性を日本社会に発信する。
実 施 内 容	【準備】 事業ガイドライン、相談員マニュアル、プライバシー保護の規約を作成。 【広報】 チラシやカードのデザインを作成、印刷、配布。マスコミの取材を積極的に受け、多くの新聞・雑誌の記事に本事業が掲載。ウェブページと専用メールフォームを作成。 【システム】 相談者は専用メールフォームから相談概略と希望日程を送信。相談員は概略を確認して、日程調整をした後、最寄りの事務所等で面談形式の相談を想定。 面談形式での相談を想定していたが、相談者の多くは電話かメールのみで済ませる方法を希望した。あらゆる形式に対応する必要性を知った。 【相談内容】 「ヘイトスピーチが不安」「歴史認識に関して教えて欲しい」「法律関連で聞きたいことがある」「在日は一体どういう存在なのか？」等、ヘイトスピーチに不安や恐怖を抱えている人もいたが、依然、在日コリアンのアイデンティティに悩む人もいる。一方で、韓国での住民登録制度や、被選挙権などに関する質問・相談も見受けられた。

成果と課題	・多くの団体・個人からサポートしていただいた結果、市民団体、小中高校等へ、晴れほこチラシ・カード配布、新聞雑誌各社への晴れほこに関する記事・広告掲載が実現した。日本社会に向けて、そして悩みを抱えている在日コリアン青年たちに、在日コリアン青年当事者が主体の相談窓口があることをある程度知らせることができた。 ・本事業に頼ってくれた相談者に、寛容な傾聴の態度と、そこから生まれる実践的な対話空間を提供し、出来る限りの解決案を相談者と共に模索することができた。 ・相談者数が想定より少なかった。「ＫＥＹに相談すればどのように解決してくれるのか？」というイメージをもっと明確にアピールすべきであった。また、「相談する気にはなれないが、もやもやしたものを抱えている」という人が積極的にアクセスしてくれるための工夫やアイデア（「～デー」などを設けるなど）が欠けていた。 ・本事業を準備・運営する中でスタッフそれぞれが得た知識や心構えなどを、ＫＥＹの普段の活動にもフィードバックし、コミュニティとしての機能に問題がないか、青年一人ひとりとの対話をおろそかにしていないかを振り返る機会となった。
今後の目標	在日コリアンが受ける差別やヘイトスピーチの問題を全面に押し出して本事業を開始した。今後は、今回の経験や反省点を活かして、もっと日常生活での細かな悩み・もやもやに共感を示す具体的な媒体や発信方法を考え、より気軽にアクセスしやすい場所であることをアピールしていきたい。同時に、ＫＥＹというコミュニティが、在日コリアン青年一人ひとりが自発的に過ごせる、排除を生まない多様な大衆組織であり続けるために、日々小さな改善を試み続けたい。

お問い合わせ先：TEL 06-6762-7261　FAX 06-6762-7262　（水木金　午前9:30～午後5:30）

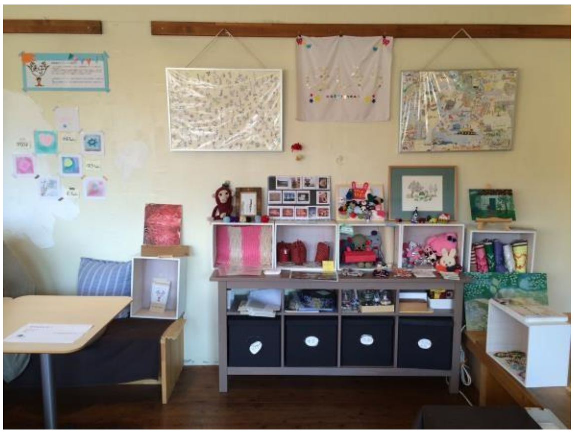
２０１４年度人権ＮＰＯ協働助成金　事業活動報告書

事業名	当事者の自主的な社会交流推進事業
団体名	ほしぞら

日時・期間	2014 年 4 月 1 日～2015 年 2 月 28 日
場　　所	パーソナル・サポート・センターあおぞら
規模・人数	10 人
解決したい課　　題	職場や学校に馴染みにくい状況にある人や、就労につながりにくい人、就労継続が難しい人たちは、日常で「当たり前」とされていることにつまずきを感じたり、自信を失ったり、社会との関わりにちょっとした障壁を感じやすくなりがちです。さらに、ちょっとした自信のなさや金銭的な余裕のなさから、さまざまな場所や情報に距離ができ、多様な選択肢や、多様な生き方を知る機会のないことも、課題となっています。 そこで、そのような課題に直面する当事者の自己表現の場や、様々な情報収集や情報発信の機会、多様な人に出会う場等を提供します。それらを通じて、徐々に自分に向き合い、自己肯定感を回復させ、自分らしく生きることにつながります。
実 施 内 容	・活動を決める会議を週 1 回開催。会計の精算も途中から会議内で行った。 ・フリーペーパーを年 5 回発行。市内機関を中心に 10 か所で配架をお願いした。 　またイベント参加時にも配布を行った。 ・展示会を 3 回開催。内 1 回は放課後等デイサービス麦の子と共同開催。 ・ドリンクなどの出店を展示会時に 2 回、イベントで 3 回実施。 ・外部機関への視察交流を 2 回開催。 ・コミュニティ農園を借りた農園活動を実施。3 回作物の植え付け、収穫を行った。
成果と課題	・当初目標としていた展示会の開催やフリーペーパーの発行などを行うことができた。 ・生きづらさを抱えた当事者たちが集まり、自分たちでできる活動範囲を広げることができた。またミーティングを通じたコミュニケーションの練習の場を創出することができた。 ・これまで関わっていなかった当事者が情報発信を行ったことで興味を持ち、活動に参加することができた。 ・次年度の自主的な運営や資金計画まではできておらず、今後この活動をどのように維持、運営していくのかは今後の課題である。
今後の目標	・当事者グループでコーヒーの自家焙煎などを行いながら就労の準備、練習ができる活動を行っていき、自主資金を作っていきながらフリーペーパーの作成、作品展の開催などを継続していきたい。

お問い合わせ先：072-747-5522（パーソナル・サポート・センターあおぞら）

その他取り組み写真



展示会の様子

カフェ出店

フリーペーパー製作中

ワークショップ風景

農園作業風景